

内訳

かわら版

109

酸欠観測始まる。

平成四年度酸欠観測が六月二十九日からスタートしました。観測予定日は毎週月曜、金曜日の二回、強風の場合は順延となります。

これまでの3回分の観測結果をまとめて第1表に示しました。

これによると、現在のところ霞ヶ浦北浦の各地点とも比較的良好な状況にあるといえますが、徐々に悪化の兆しがみられます。

今シーズンの水質予想

霞ヶ浦全域にアオコ発生

霞ヶ浦北浦の水質長期予想は台風等による天候の影響が大きいため、非常に困難といわざるを得ま

第1表 酸欠観測結果

地点 測定月日	霞ヶ浦									北浦			
	手賀場	五町田	湖心	木原	牛渡	田伏	内水試前	小津	下玉里	江川場	江川沖	阿玉	梶山
6/29 表層 底層	13.2 4.5	10.2 7.8	11.5 9.9	12.7 8.6	11.6 8.4	13.2 4.3	15.0 2.7	16.1 6.8	16.2 12.2	11.6 4.8	13.5 5.4	12.6 4.4	11.0 9.5
7/ 3 表層 底層	10.2 5.2	9.7 8.2	10.3 6.7		10.0 4.2	10.6 5.7	11.5 4.0	11.2 4.7	9.7 6.2	9.3 5.2	9.6 5.6	9.6 5.3	8.6 7.4
7/ 7 表層 底層	8.6 2.7	4.6 2.4	8.7 8.1		9.9 2.5	8.8 6.4	11.0 2.0	12.2 10.8	13.0 8.6	9.4 3.6	11.0 3.0	12.0 3.3	9.7 5.1

せん。前年度は大型雨台風の影響により塩分濃度はかなり低下しましたが、おおきな酸欠状態は起こらず、安定して推移しました。今年の6月期は例年に比べて水温が1℃ほど低く、透明度が高かつたのですが、霞ヶ浦においては6月下旬からアオコの発生が見られるようになりました。北浦においてはサイクロテラ、ゴンフォスフェリア等が優占し、アオコはまだ見られていません。この時期にアオコが霞ヶ浦全域に見られるのは久しぶりのことで、昭和62年以来(5年ぶり)ということになります。過去5年間はオシラトリア、フォルミデイウムといった糸状のプランクトンが優占し、均一に分布する性質のため、極地的な酸欠は起こり難かつたものと思わ

れますが、アオコの場合は浮上する性質があるために、風によって特定地域に集積され極地的な酸欠が起きる恐れが出てきます。現在の状況は、かつてのアオコが大量発生した年と同じ状況ですので、大量発生する恐れが充分にあります。このため、今後の晴天続き、高水温等の天候によつては酸欠被害が起きる可能性が心配されます。現在のプランクトンは、アオコとアナベナが混在しており、しばらくの間は大きな酸欠は起こらな

いと思いますが、今後のプランクトンの発生状況、および酸欠情報を参考に注意して頂きたいと思